

安川電機 2023 年度 第 3 四半期累計期間 決算オンライン説明会 質疑応答（サマリー）
（2024 年 1 月 12 日（金））

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

上席執行役員 コーポレートブランディング本部長 林田 歩

（注記）：

モーションコントロール：モーションコントロールセグメント

AC サーボ：AC サーボ・コントローラ事業（モーションコントロールセグメント）

インバータ：インバータ事業（モーションコントロールセグメント）

ロボット：ロボットセグメント

システムエンジニアリング：システムエンジニアリングセグメント

その他：その他セグメント

Q モーションコントロール、ロボットともに業績予想を下方修正しているが、モーションコントロールとロボットそれぞれの受注残の状況や見通しも含めて 3Q の着地をどのように見ているか。

A モーションコントロールはやや下方修正をしたが、それは AC サーボの中国の景気減速が想定以上だったことが要因だ。中国では受注したら即売上げとなる状況になったため、中国の落ち分が影響した。この部分は 4Q で取り返すのは難しいと感じており、モーションコントロールの業績の下方修正を行った。中国の受注は 6 月から 8 月にかけて減速し、9 月にボトムを打った。10 月からは徐々に回復基調に入ったため、3Q がボトムであると見ている。

足元で、お客さまの在庫調整は最終局面にある認識だ。なお、AC サーボの受注残は減少しており、現在は 4 ヶ月分を切る状況となっている。

インバータは受注残が約 5 ヶ月分残っており、売上に対する懸念はないが、2Q より 3Q で売上が落ちた要因としては、グローバルで基板部品のアロケーションでミスマッチが起きたことが挙げられる。すでに対策を打っており、4Q で取り返す計画だ。

ロボットは従来通り 3Q で仕掛りを溜めて、4Q で売り上げる計画だ。一部、3Q から 4Q にずれた案件もあるため、4Q で確実にキャッチアップする。

システムエンジニアリングは堅調に推移しており、4Q における業績に寄与すると考えている。

Q 半導体需要の 4Q に向けての回復期待や EV 関連需要の動向はどうか？ 3Q の状況と 4Q の見通しを教えてください。

A 半導体は米国、欧州（イスラエル）、韓国、台湾などでは 3Q において回復基調。日本はまだ在庫調整中のため、全体的には半導体の回復が見えてきたとは言えないが、4Q ではもう少し立ち上がると見ている。もともと半導体需要の立ち上がりは 4Q と想定していたため、あまり遅れていることはない。EV については、中国で 22 年度の前半に大量の受注があった状況からは減速しているが、売上ベースでは順調に推移している。一方で、韓国や欧州、一部米国でも新たな EV 案件は動き出しており、ロボットの受注が底堅く推移している。欧米での EV の売れ行きを懸念して投資を減速する流れが一部であり、当社の受注にも先送りの動きもあるが、足元の EV 関連の受注は続いている。韓国のロボットの子会社であるドゥリム安川では、韓国の自動車 OEM からの大口受注を獲得しており、これは韓国内だけでなく欧米にも関連しているため、強い流れが続いている。

Q EV 案件が中国では一巡した一方で、欧米では底堅いとのことだが、今後のドライバーになり得るか？

A 欧米の EV 投資は始まったばかりで、グローバルに中国メーカーに対抗するための投資が始まるのは必然だと思う。欧米の次に日本での投資が増えると考え。その先は中国でも、新モデルの導入などにより 22 年並みの投資が復活してくると見ている。

Q 3Q の受注（1,283 億円）は社内計画に対しどのような進捗だったか？また、4Q の受注はどのように想定しているか？

A 3Q 受注については、AC サーボは中国の落ちが想定より大きかったため計画比でマイナスだったが、インバータとロボットに関しては、ほぼ計画通りであった。4Q の受注の想定は、AC サーボでは在庫調整が終わったお客さまから順に受注が入ると見込んでいる。インバータの受注水準は足元でも高く、これが 4Q も継続する想定だ。なお、米州のオイル・ガス関連で 3Q に大型発注があったため、4Q でそれと同規模の受注が仮に無ければ、対 3Q では減少の可能性はある。ロボットも、3Q で韓国のドリム安川が大口受注を取っているが、4Q ではそれほどの大口案件は見込んでおらず、対 3Q では若干下がる想定だ。4Q の全社受注としては、YoY ではプラスを期待している。

Q 中国ではもうすぐ春節を迎えるが、従来のような春節明けの需要増は不透明だが、期待できるポイントはあるか？

A 個人消費は冷え込んでいるため大きな景気回復は期待できないが、政府主導の脱石油・石炭といった新エネ分野では積極的な投資が続いている。太陽光関連の投資は在庫調整で停滞していたが、9 月に底を打ち 10～11 月にかけて立ち上がっており、この流れは継続するだろう。蓄エネ分野も盛り上がってきており活発になりそうであり、悲観する必要はないと思っている。

Q 中国の AC サーボは 4Q にかけて受注が回復する想定とのことだが、そのドライバーは太陽光関連か？それともスマホ関連などの回復も見通しているか？

A 中国においては、工作機械関連が低調に推移している一方で、太陽光関連は在庫調整が完了し、3C*関連でも新端末向けや海外輸出案件が動き出している。また、輸出向けのレーザー加工機関連にも動きがみられ、春節明けに向けて期待が持てる。

Q 太陽光関連はオーバーキャパシティで投資一服との話も聞かれるが、どう見ているか？

A 6 月は需要がかなり高かったが、7～9 月と落ち込み、10～12 月で回復した。現状は、在庫調整が落ち着き、ロボット事業においても溶接システムの需要が見られることから、回復基調に入ったと見ている。

Q 半導体関連の AC サーボの受注は QoQ でどれくらい上昇しているか？

A 3Q の半導体関連受注の水準は上がっている地域もあるが、日本は在庫調整が継続するなど、全体的には 2Q からあまり変わっていない。在庫調整が終わった地域から立ち上がる想定をしている。

Q 最近の新聞報道で小川社長が米国の先端産業について明るいコメントをしていたが、今後どのような変化が見込めるか？

A アメリカの半導体市場が先端産業であることは間違いなく、当社はこの市場のお客さまの進化をサポートし、プレゼンスを高めていく。詳しい話はまだできないが、当社はこれから 300 億円程度の設備投資を米国全体で計画している。半導体の後工程で 3D パッケージングの進化が起こる中、そのエコ

システムにおいて AC サーボとロボットを組み合わせるなど、当社の強みを生かし、独自の提案を行えるよう体制を強化する。

Q AC サーボは受注残があるにも関わらず、今期の売上が四半期ごとに減少しているのはなぜか？

A 半導体が低迷する中で、受注残の消化を進めていたが、お客さまの在庫調整との兼ね合いで 3Q は出荷も減ってきた状況だ。それによって、受注の減少にある程度連動しながら売上も減少してきた。受注残は約 4 ヶ月分と調整が完了しつつある状況であるため、即納体制が取れつつある。4Q にかけては短納期の受注の獲得を目指していく。

Q 足元の高い粗利率の水準を来期も持続可能か？受注残が減ってきている中で、ボリュームに依らない付加価値改善に向けた要素は？

A 今期は価格転嫁により前年度から約 80 億円改善する想定だ。これが来年度は期初からフルに効いてくる。加えて、ソリューションコンセプト i³-Mechatronics による高付加価値提案の成果が出てきているため、それをさらに加速させる。また、各工場内で製法・自動化を進めることで効率を高め、付加価値増に注力していく。

Q 3Q だけの利益を見ると 2Q より大きく悪化しているが、売上の減少幅に比べて利益の減少幅が大きいのはなぜか？

A 3Q の利益の減少は売上の減少によるもの。売上の減少に対して間接費を削減できているわけではないため、売上減の 50%（限界利益率相当）が利益を圧迫することになるが、付加価値の改善によって減少幅を抑えている状況だ。

*コンシューマー向けデジタルコミュニケーション機器の略（Computer、Communication、Consumer Electronics の 3 語の頭文字から）

以上